

共生のための社会とつながる
日本語活動

北陸大学
横田隆志

1.活動の背景

教室活動での疑問

「日本で日本語を教えているのに海外で教えている時と同じだな」

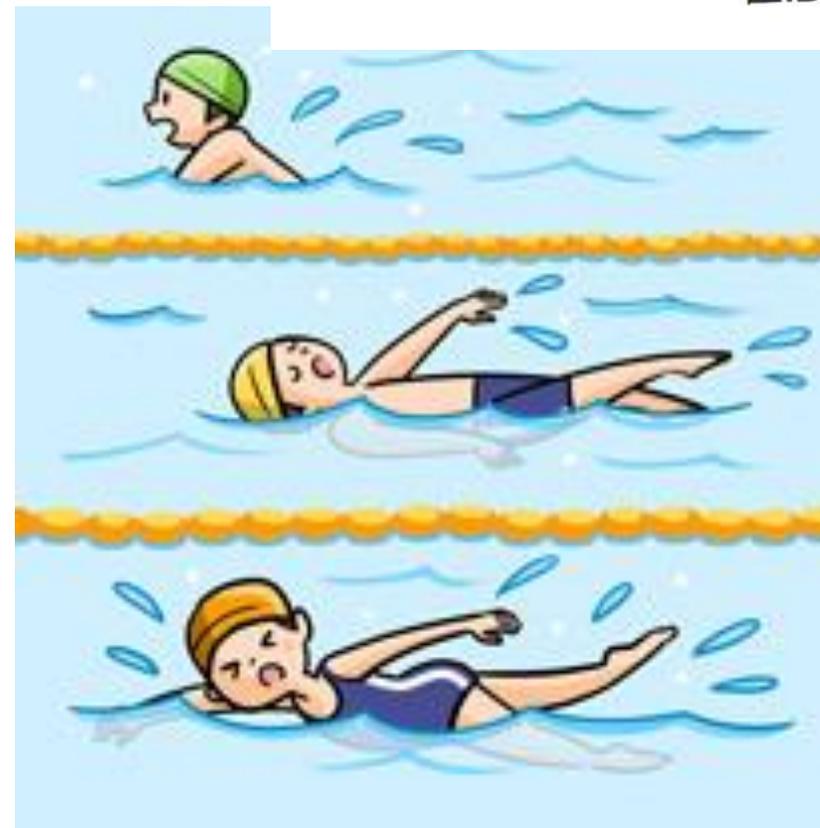
「日本語の環境があるのに教室で日本語を教える活動？」

→第二言語としての日本語教育

「日本語教育って学習者に日本語を教えることだけなのかな？」

→日本語教育の意義

第二言語としての日本語教育



日本語教育の意義

日本語教育の目的の変化

個人の言語能力の習得やその向上



日本語教育を通じて社会の課題の解決

誰のための？何のため
の？日本語教育？？？

ことばと共生
(日本語教育学会)

日本語教育でつくる社会
(日本語教育政策マスタープラン研究会)

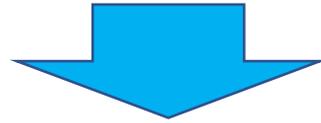
人をつなぎ、社会をつくる
(日本語教育学会)

社会的存在としての
日本語学習者
(日本語教育の参照枠)

学習者が日本語教育を通じて社会にどのように関わっていくか、そしてその関わりによって社会がどのように変化することができるかについて考察する必要がある。

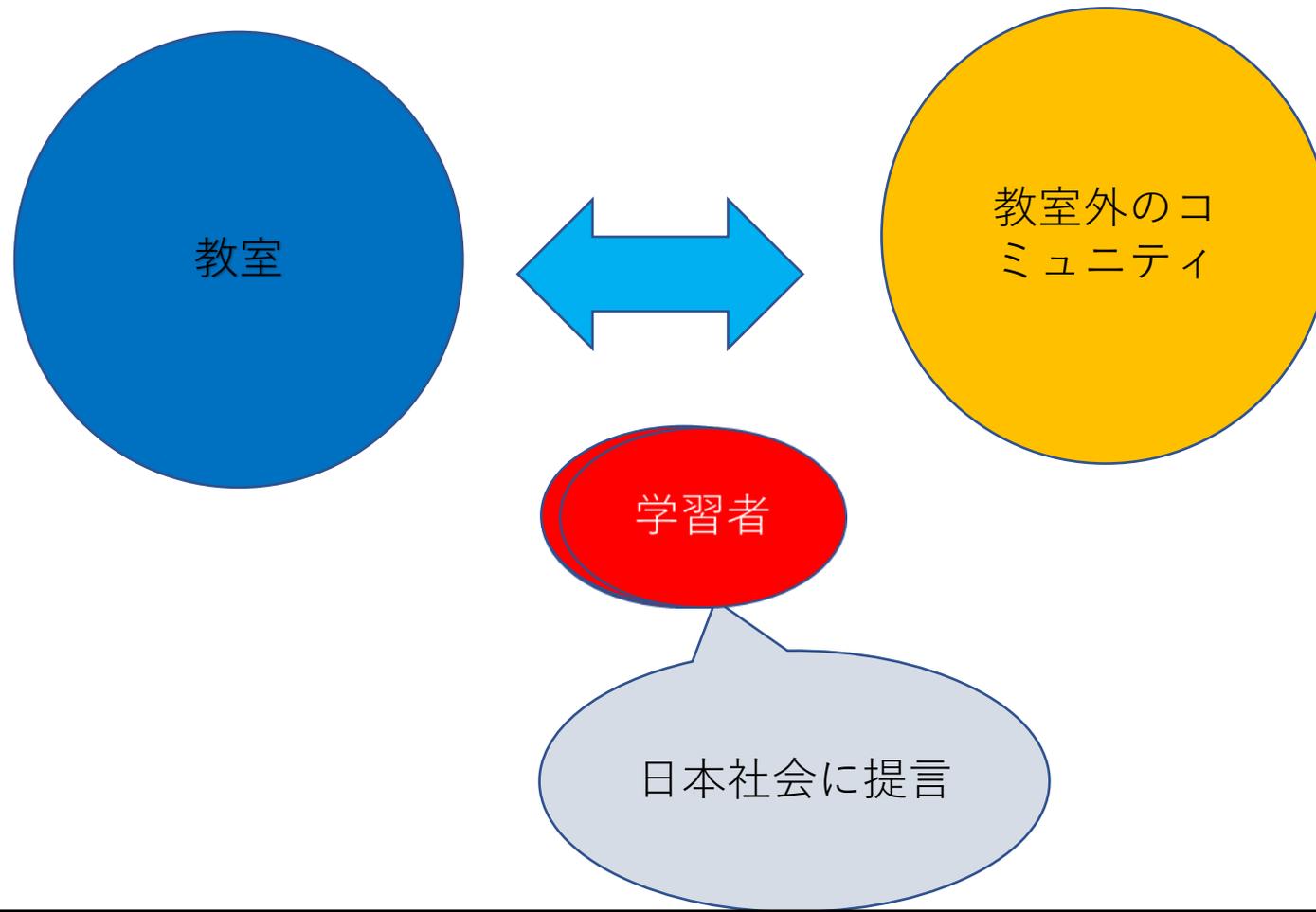
2.社会につながる日本語活動

学習者が学習者自身が生活をするコミュニティに積極的に関わり、同じコミュニティに所属する人々との協働を通じてより良いコミュニティを構築する

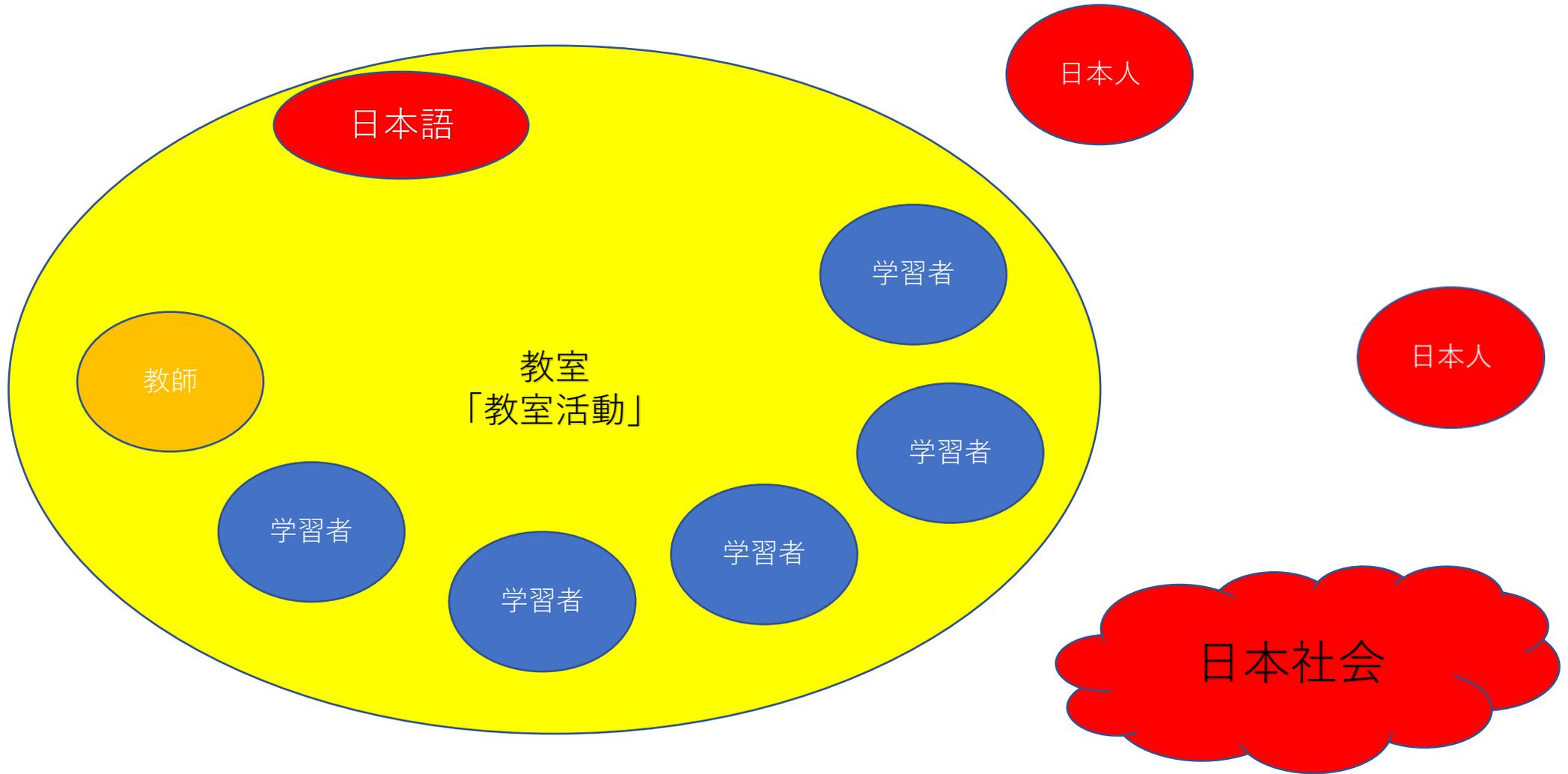


教室外の参加者と学習者が考える問題を協働で解決しようとする活動

教室活動



従来の活動①



教室活動

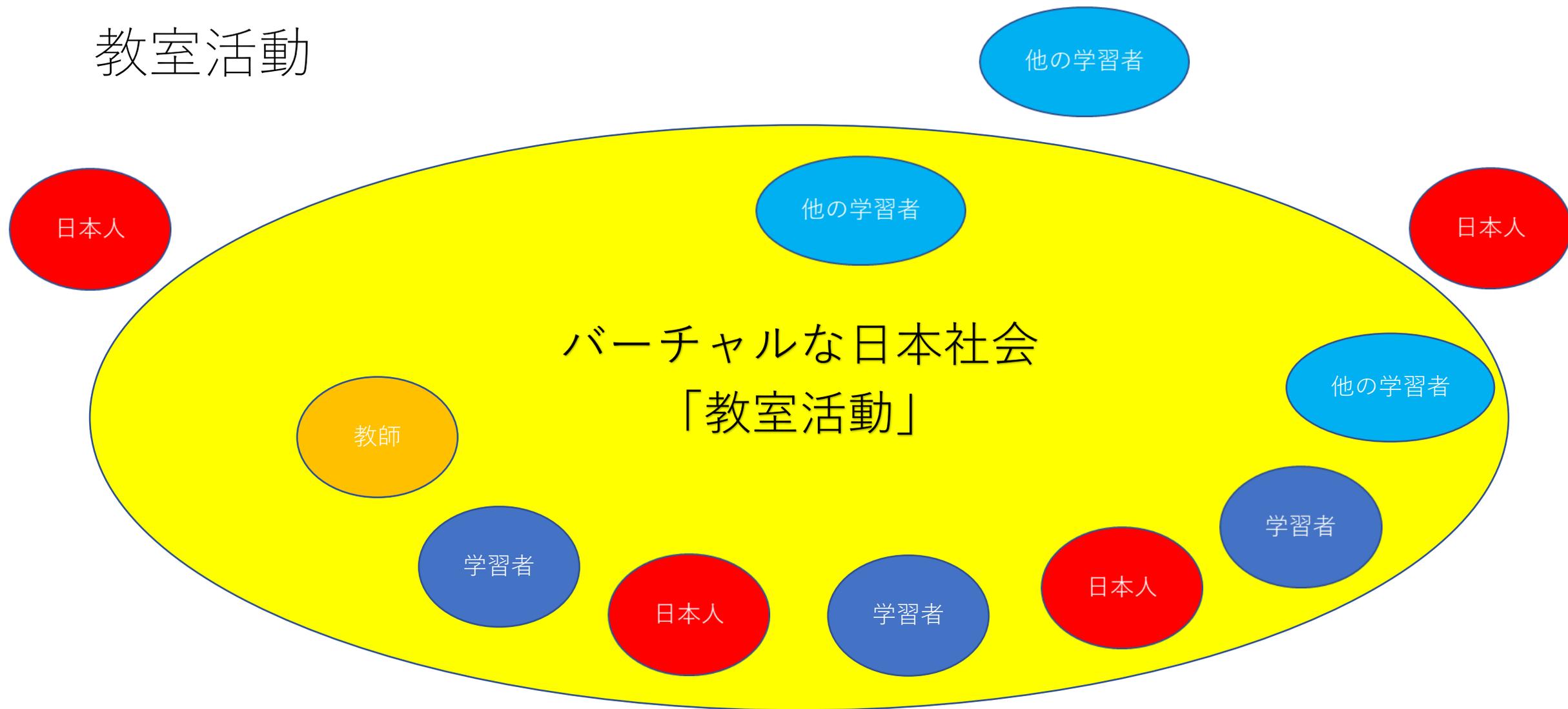
「教室活動に参加する人は増えたけど教師が増えただけかな？」

- ・ 教室活動人口になる人を増やす
- ・ 教室活動に自由に関われるようにする

関係人口 （地域自立活動）

移住した「定住人口」でもなく、
観光に来た「交流人口」でもない、
地域や地域の人々と多様に
関わる人々のこと

教室活動



日本社会の問題点

4

コメントを追加

日本の問題



PPTX

2021m813耿一寧

0

8

匿名 1ヶ月

日本には自転車ナビゲーションというアプリが

5

裘天辰 1ヶ月

中国人として、カタカナは大切な問題です。時々、平仮名をわかることのに、かたかなに換えると、読めなくなります。

Nakashima Mami 1ヶ月

ひらがな、カタカナ、漢字。世界中の日本語学習者の皆さんを応援しています！

ITO 1ヶ月

とても面白い発表でした。英語→カタカナの言葉の中には、短縮される言葉もあります。例えば、「デフォ（Default）」「リスケ（Reschedule）」などです。「スマホ（Smartphone）」もそうですね。カタカナの勉強、頑張ってください。

コメントを追加

6

慣れません。私たちはゴミ袋を持ち歩く習慣がないからです。郷に入ったら郷に従えとしか言えないでしょう。

Nakashima Mami 1ヶ月

昔(30~40年前)、都会も、ここ石川県もゴミがたくさん落ちていました。山、川や海もゴミが多かったです。ごみの分別やリサイクルは自然環境を守ります。

耿一寧 1ヶ月

日本のゴミ回収制度は複雑で、たしかに外国人にアピールする必要があると思います。となると、この問題は外国人にとっての問題しかないではないでしょうか。

匿名 1ヶ月

余談ですが、小学生の遠足など、来た時よりも美しくする（自分のゴミはもちろん、周りにあるゴミも持って帰り来る前よりも美しい状

7

裘天辰 1ヶ月

確かにコロナウイルスで最も深刻な問題です。

祝登輝 1ヶ月

確かに注意が必要です。新型コロナウイルスの予防には社会全体の努力が必要があります。

ITO 1ヶ月

早く留学生のみなさんが日本に安心して来られる日が来ることを祈っています。

呉明錫 1ヶ月

疫病の予防措置は社会全体の注意を引くべきである。

コメントを追加

8

国ではほとん
ることが多い
なくなってい
便利だと思
ライブシーに
れば個人の
済を利用す
思います。

王禹潼 1ヶ月

中国での電
行したときは
するときは
り、紛失や盗
済は本当に

ITO 1ヶ月

都会では電
が、本当の
電子決済が

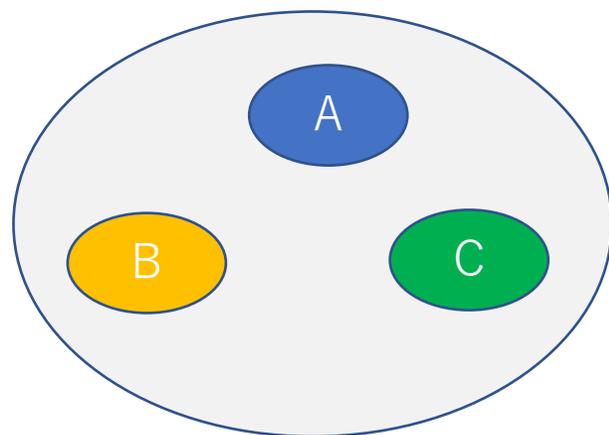
従来の教室活動②

「グループ活動ってうまくいかないときがあるなあ」

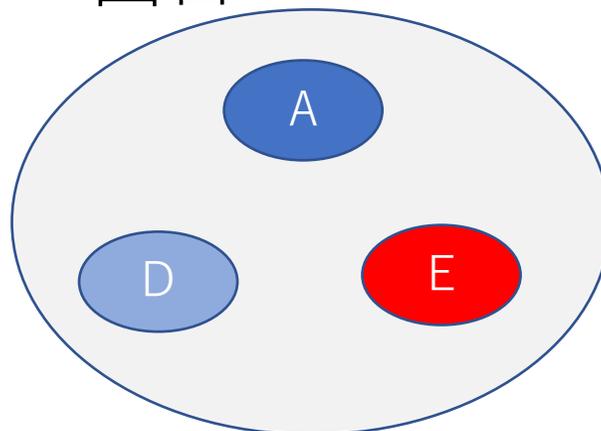
「グループで合意形成は必要なのかな？」

教室活動③

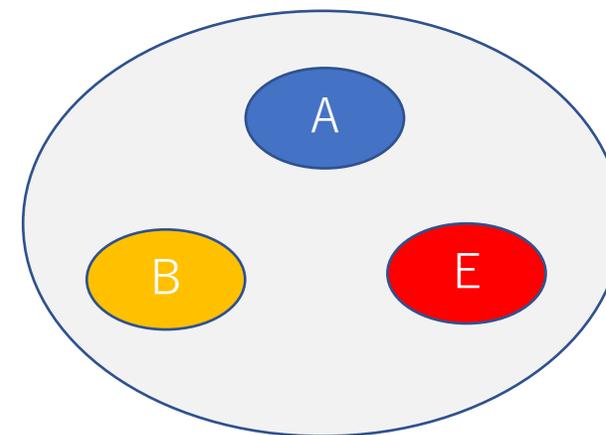
1回目



2回目



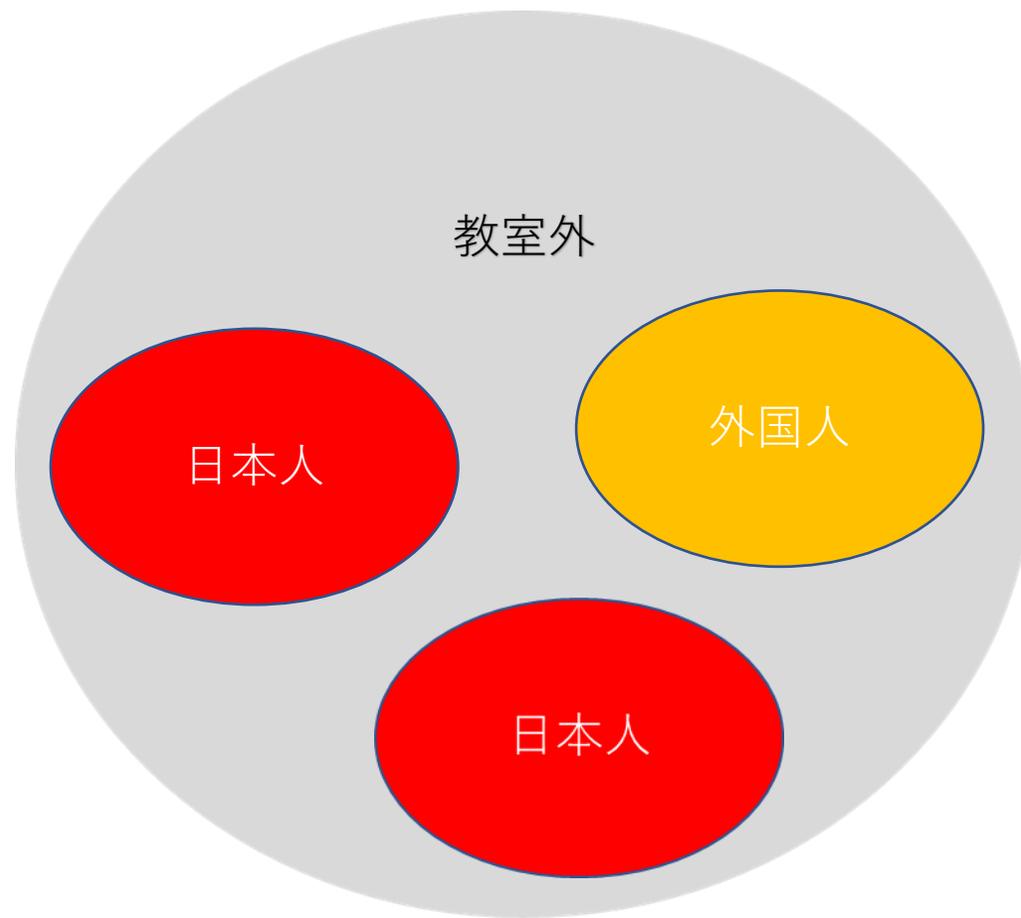
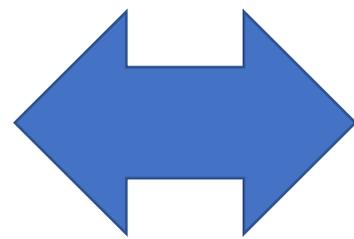
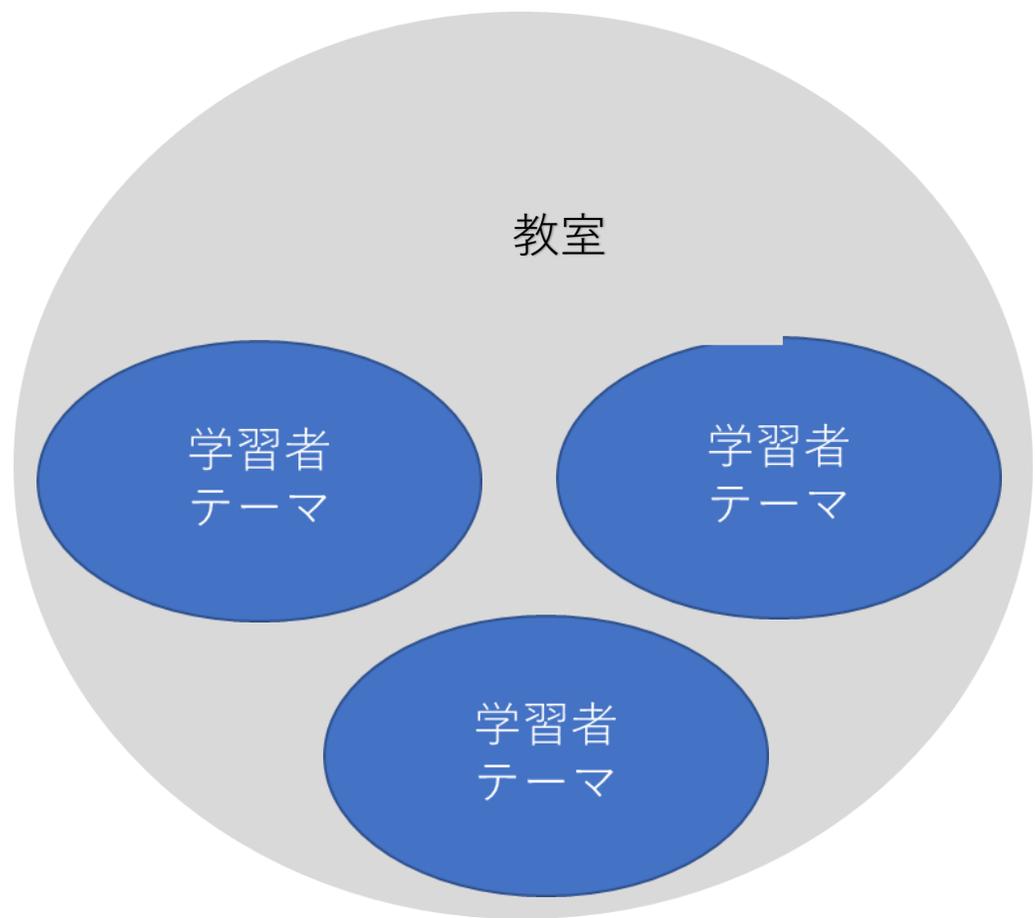
3回目



同じグループでの活動を通じてテーマを解決



個人がグループ活動を通じてテーマを解決



従来の教室活動③

「発表を聞いているのは学生と教師だけ？」

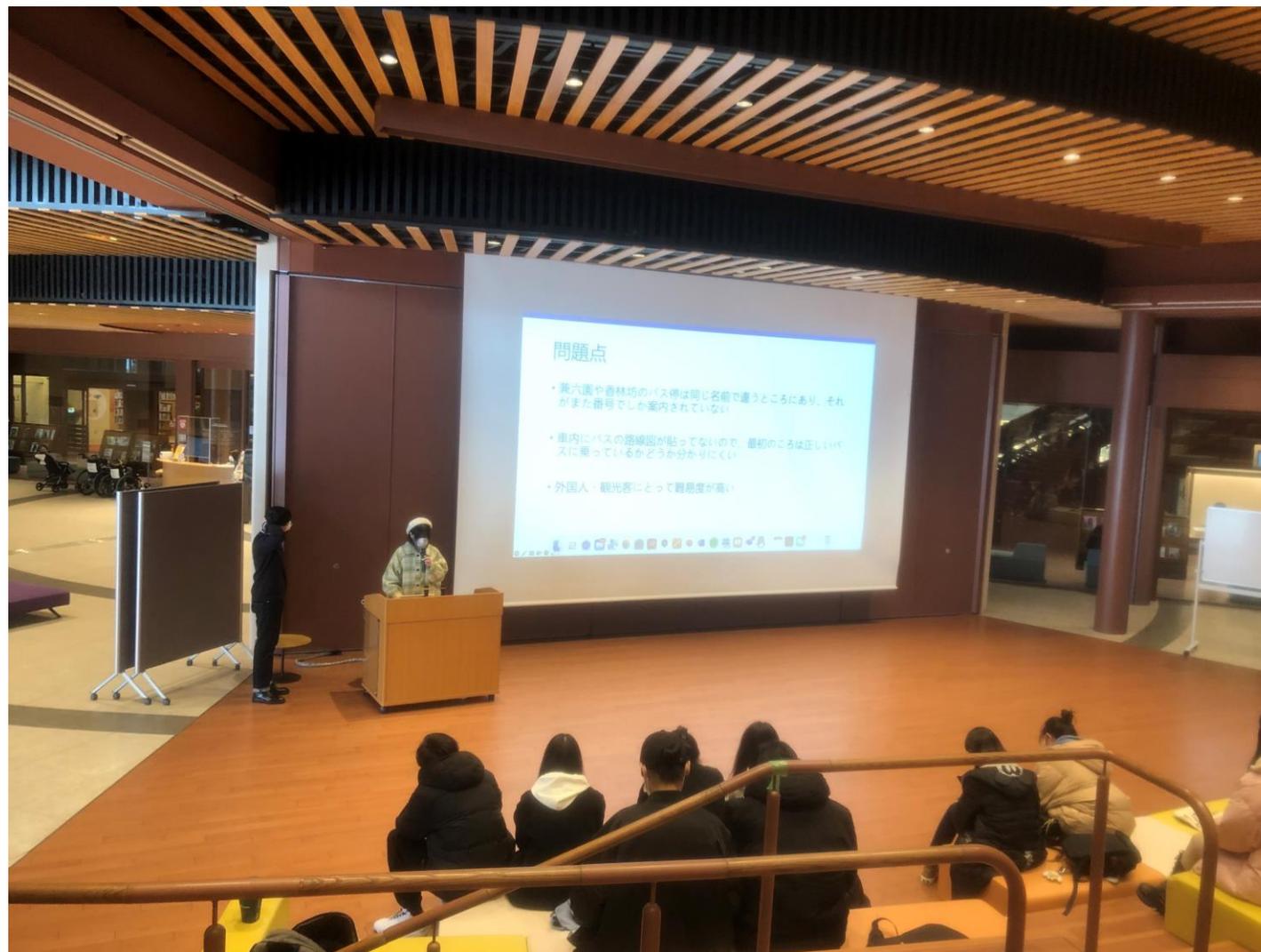
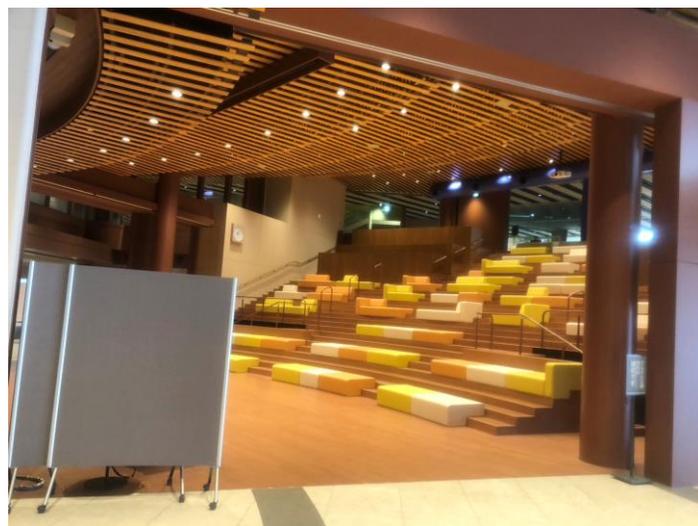
「社会につながっていないなあ」

「学生は教師を見てるなあ」

カフェテリアでの発表



県立図書館での発表



3.実践（2022年度秋学期の活動）

学習者

編入留学生15名（中国）：4年生の日本語科目

参加者

石川県内に住む12名

市役所の職員、不動産会社社員、地域住民、大学生、外国人住民

活動の目的

さまざまな人々の交流を通じ、大学や金沢市などがよりよい生活の場になるための提言をする。

活動内容

	授業の内容(活動方法)
1	大学について(グループワーク)
2	大学についての情報(グループワーク)
3	大学への提案を考える①(個人・グループワーク)
4	大学への提案を考える②(個人・グループワーク)
5	発表①
6	振り返り(個人・担当教員とのインタビュー)
7	金沢のイメージについて(グループワーク)
8	金沢市について知る(グループワーク)
9	金沢市の情報(グループワーク)
10	金沢市の問題(グループワーク)
11	金沢市への提案を考える①(個人・グループワーク)
12	金沢市への提案を考える②(個人・グループワーク)
13	金沢市への提案を考える③(個人・グループワーク)
14	発表②
15	振り返り②(個人・担当教員とのインタビュー)

学習者の声

図書館や食堂で発表できるのは得難い体験でした。大学では一般的に教室内で発表されているが、今回は図書館を見学に来た人に向けての発表だったので体験感覚は違って、一生懸命取り組みました。このような機会がいいです。

テストなどの評価では、正解は一つしかないため、この授業の意味、つまり社会とつながるということに対してはあまり意味がないと思い、この授業ではやはり自分の考えと他人の意見とかを聞いて考えていくことは大事だと思います。

伝える相手

活動の目的

多様性の発見

社会につながる意識

不思議ですね。おかしいとは思わないけど、新しい視点ですね。人によって考えは違うんですね。

発表内容によって成績が決まるのであれば、日本人や先生に注目しやすい。あるいは発表しやすいテーマをわざわざ選んで発表する可能性が高い。このような話は全く言いたくない内容を言わせるかもしれない。

教室外の日本社会に入って、日本人の本当の考え方を了解し、新しい視座で日本を再認識することができました。

教室外の参加者の声

学生の発言に関してはその発言をする人が生きてきた背景を知ることができ、そこに価値観の違いがあることに気がついた。

自分たち置かれてる状況は当たり前で、あまり問題とは感じていなかった。しかし、このようなことはよく考えると問題であるということを感じることができた。

外国人への配慮

やさしい日本語の意識

日本の再発見

多様性の発見

意見を伝えることの重要性

自分の意見をみんなに言うことはあまりしない。自分は日本では外国人であり、だれも自分の意見を聞いてくれないと思っていたが、意見を伝えることの大切さについて気がついた。

外国人との交流では自分の日本語をコントロールしながら分かりやすさを考える必要性を感じた。

日本でも自分の生活とかかわりのないようなことは気にしないで生活をしているが、問題が多いことにも気づいた。また、日本人同士でのやりとりでの意見の違いから日本人だからみんな同じ意見であるとは限らないことについて気づいた。

偶然の参加者

話を聞いている間にもっといろいろなことを聞いてみたいと思うようになった。また、外国人とも話をしてみたいと思うようになった。

普段は外国人と交流する機会はないが、外国人が増えたことには気づいていた。外国人の話す日本語のイメージとは違い、留学生の日本語が上手なことに驚いた。

**留学生の日本語
能力の高さ**

日本の再発見

留学生の視点

外国人への興味

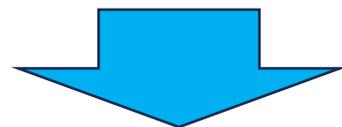
金沢で生まれ、育ったためにいろいろなことが当たり前であり、問題に気づくことはなかったが、学生の発表を聞いて新しい気づきがあった。そのため、学生が提案することも新しい視点からの提案で非常に興味深く感じたとし、納得するものもあった。

図書館に本を借りに来たらイベントをしていたので参加した。特に予定もなく、何も考えずに会場に入ってみた。オープンスペースのため、参加しやすかった。

活動から分かったこと

- ・ 学習者が自分自身のコミュニティに興味を持つようになった。
→ 市民性、社会に対するオーナーシップ
- ・ 伝える相手が変わった。
→ オーディエンスの変化に伴う意識の変化
- ・ 参加者が活動を通じて新しい気づきを得た。
→ 共生の意識

他者と共にある社会でことばを使って共に学ぶ活動



共生のための社会とつながる日本語活動

参考文献

- 日本語教育学会（2017）「公益社団法人日本語教育学会の理念体系—使命・学会像・全体目標・2015-2019 年度事業計画」
- 日本語教育学会（2023）「日本語教育学の俯瞰図」の解説と活用法—日本語教育と日本語教育研究の相互活性的なダイナミクスの促進をめざして—
- 日本語教育政策マスタープラン研究会（2010）『日本語教育でつくる社会 私たちの見取り図』ココ出版
- 文化庁（2021）「日本語教育の参照枠 報告」
https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/kokugo/hokoku/pdf/93476801_01.pdf